

東日本大震災復興祈願

蠟燭新能

きたりゆう ひろしまろうそくたきぎのう

喜多流



黒塚

能 黒塚



栗谷明生

狂言 昆布売



野村萬斎

能 清経



大村定



清経

平成26年5月12日(月)

開場◆午後5時 開演◆午後6時 終了予定◆午後9時頃 ※雨天の場合は13日(火)に順延
場所◆広島護国神社 特設能舞台 主催◆広島蠟燭新能の会/中国新聞社

写真提供：栗谷明生

Hiroshima Rohsoku Takigi-noh

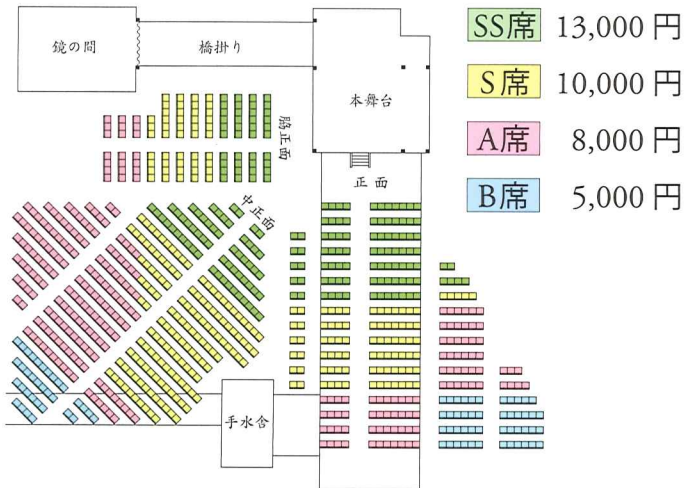
能 清経 (きよつね)

シテ 平清経の霊／大村 定 シテ連 清経の妻／粟谷浩之
ワキ 粟津三郎／大日方 寛 地頭／粟谷能夫
笛／出雲敏弘 小鼓／横山幸彦 大鼓／三王 清

都落ちした平家一門。なかにも重盛の三男清経は前途に絶望し九州柳ヶ浦で入水した。

家臣粟津三郎が清経の形見の黒髪を手に残し置いた妻を訪ねる。妻は、生死を誓い合ったにもかかわらず、自ら入水した夫を恨み悲しみ、形見の黒髪も見る程に辛く、筑紫の宇佐八幡に手向け返し、せめて夢になりと姿を見たいと涙ながらに床についた。妻の夢のなかに清経があらわれ、語りかける。互いに愛ゆえに恨みをかこち合う。清経は都落ちして後、落ちのびた九州も追い落され、たのみにする宇佐八幡の神託にも見捨てられ望みを失ったことを語る。清経はこのまま憂き目を見るよりはと思いつき、月夜に横笛を吹き鳴らし、朗詠し、入水した。

死後は修羅道に落ち苦しみを受けていると訴えるが、死に臨んでの念仏の縁で成仏したと消え失せた。



※場内での撮影、録音は固くお断りいたします。
※場内での時計のアラーム、携帯電話の電源はお切り下さいますようお願い致します。
※出演者は、都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。

狂言 昆布売 (こぶうり)

シテ／昆布売 野村萬斎
アド／大名 内藤 連

供を連れずに出かけた大名。たまたま通りかかった若狭の小浜の召し(献上)の昆布を売る男を脅し、太刀を持たせて供とする。始めはしぶしぶ従っていた昆布売りだが、大名が油断した隙に太刀を抜き、逆に脅された大名が昆布を売ることになる。物など売ったことのない大名は、昆布売りにさまじまな注文をつけられ…。

昆布売りが太刀を抜くことで強いはずの大名より優位に立つという、中世の下克上の世相を反映した立場の逆転が笑いを誘う狂言です。また昆布の売り声には、浄瑠璃節や踊り節など中世の流行歌謡が取り入れられています。

能 黒塚 (くろづか)

前シテ／里の女 後シテ／鬼女 粟谷明生
ワキ／山伏 大日方 寛 ワキ連／同行の山伏 坂苗 融
アイ／随行の能力 野村萬斎 地頭／粟谷能夫
笛／出雲敏弘 小鼓／横山晴明 大鼓／三王 清 太鼓／梶谷英樹

紀州熊野の山伏祐慶の一行は廻国修業の途中、奥州安達原に着く。日も暮れ、荒れ果てた庵に一夜の宿を乞う。女主人は、山伏の願いを入れ、梓梓輪(わくかせわ・糸繰り車)を回し、この道の辛さ、無情さを嘆き、糸尽くしの唄を謡い糸を繰る。

深更、寒さがつのる。女は焚火で客僧を暖めようと山に木を採りに行く。闇の内をくれぐれも見ぬよう言い置いて。

〈中入〉

山伏の従者能力は、闇の内を見るなどと言った女の言葉が気にかかり、山伏たちの眠ったすきに闇の内を覗く。そこは黒々たる死体の山。能力の知らせに山伏たちも驚き見れば、これこそ黒塚に住むという鬼女の棲家。

逃げ行く一行を、裏切られ鬼女と化した女が追う。しかし山伏たちの必死の祈りに鬼女は身を恥じ、夜嵐とともに消え失せた。

東日本大震災復興を祈る「祈りの蠟燭献灯」のお願い

「3・11を忘れない。」

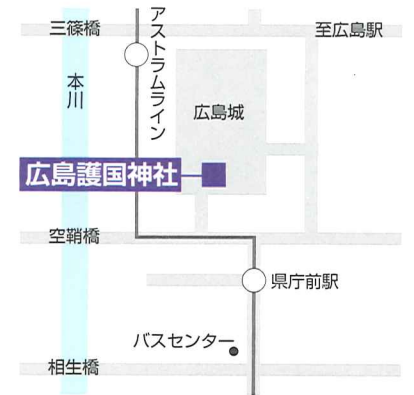
時間の経過とともに、被災地の現状を知らせる報道は少なくなっています。未だ復興ままならない被災者の人々には、これからも継続的な支援が必要です。皆様のお志を、鎮魂と希望と復興に重ねた、「祈りの蠟燭献灯」に託して頂ければ幸いです。なお、ご献灯料は全額義捐金とさせていただきます。

入場券販売所

エディオン広島本店プレイガイド／福屋広島駅前店チケットサロン／中国新聞社読者広報部／広島護国神社

問い合わせ先: 広島蠟燭薪能の会 [広島蠟燭薪能](#) [粟谷能の会](#) [能楽協会](#) [広島護国神社](#) [検索](#)

広島市中区基町 21-2(広島護国神社 内) TEL 082(221)5590 (9:00 ~ 17:00 の間)



◆バスセンターより徒歩約8分
◆アストラムライン県庁前より徒歩約8分
◆JR広島駅よりタクシーで約10分
※駐車場はありませんので公共交通機関をご利用下さい。